2019．5.10

アジア神学セミナーオリエンテーション

徐正敏
（明治学院大学教授、キリスト教研究所長）

＊オムニバス（**omnibus**）式の講義と討論。

＊講義の具体的なテーマは、聖書と神学、歴史、文化に集中する。

＊講義に関する資料は「キリ研」ホームページに掲載（「キリ研」にも備える）。

＊コースの終了は出席、コメントペーパー中心に評価して、パス（**pass**）、ノンパス（**non pass**）

＊ほぼ毎週簡単なコメントペーパーもある。

＊金曜日のノーマルの講義以外に「キリ研」の研究会、講演会などの学術イベントにも参加（「キリ研」ホームページのイベント部分を参考）

第1回講義の序論、補論

＊アジア論

グローバル(global)化か、ローカライズ（localize)化か。
相対的中心意識（主義）

東北アジアの歴史的経験

中国：中華主義、
アジア周辺国に対する直接統治と影響力
西欧と日本帝国主義コンプレックス
共産主義革命

日本：鎖国、
西欧帝国主義コンプレックス
近代以後「脱亜入欧」、
「東洋平和論」
日本帝国主義の実験と実践
「大東亜共栄圏」
敗戦と歴史トラウマ

韓国：鎖国、孤立
戦争と「事大主義外交」
日本帝国主義による植民地被害経験
民族分断ストレス、反共コンプレックス
朝鮮戦争とベトナム戦争のトラウマ

＊帝国主義論

第1次帝国主義時代：16世期以後、カトリック帝国主義：スペイン、ポルトガル中心
第2次帝国主義時代：18世期以後、プロテスタント帝国主義：イギリス、オランダ、ドイツ中心
第3次帝国主義時代：19世期末以後、非（反）キリスト教帝国主義：日本

帝国主義との対決：1. 近代民族主義、2. 社会主義
例外：1. ナチズム、ファシズム（帝国主義＋民族主義）
2. 主体主義（社会主義＋民族主義）

1945年第2次世界大戦終戦以後、国連（UN）創立精神、帝国主義の終焉
しかし、資本主義、新自由主義→経済的帝国主義横行
極端的資本主義、国家単位の利益中心
地域共同体の模索
イデオロギー陣営覇権主義→戦争、冷戦

世界化、地域化：共存と抑圧

＊アジア神学の定義、補論

tc論

t: text

c: context

t1 + c1 = tc1、tc = t2

t2 + c2 = tc2

アジア**vs**神学、

既存の形容詞的な意味の「アジア」ではない。
アジアとキリスト教が対等な概念、そのバランスを持つ。

アジアそのものの神学、伝承と文脈のバランス。

＊アジア神学セミナーの神学的目標

本セミナーは、当面東アジアのキリスト教史を中心的なテーマ領域としてスタートするが、その根底にある問題意識には、仏教のような本格的なアジア宗教の根底に広範に広がっている「アニミスティックな感性」や、あるいは「アジア的霊性」に対して、マイノリティ宗教としてのキリスト教が過去、現在、将来において、どのように関わってきたのか、関わっているのか、今後関わっていけばいいのかといった歴史認識の問題とそれを超えた実践的問題関心がある。

アジア宗教の主流である習俗化したシンクレティズム（宗教混淆）に対して、外来宗教としてのキリスト教宣教は多くの挫折を経験して今日に至っている。その経験から提起されている「欧米文明化」型キリスト教宣教とそれを支えてきた神学・キリスト教倫理の見直しの問題、アジアの文脈の中での聖書の読み方の問題など、キリスト教の根幹に関わる問題群も本セミナーで順次取り上げられる。

これらの問題群は、従来のアジア宗教（たとえば禅仏教者）とキリスト教（の神学者）による「宗教間対話」からはなかなか見えてこないテーマであり、日本人を含むアジアの人々の日常生活の中に溶け込んでいる多様な宗教的感性（政治的・社会的感性を含む）とキリスト教との接面を掘り起こす作業を不可欠とする。これらは教会の牧会現場やキリスト教学校の教育現場、職場等での具体的な経験、知見を持ち寄って討議することで初めて考察対象自体が見えてくるといった性格のものであり、本セミナーでは、それを広く「エイシアン・コンテクスト（アジア文脈）の中のキリスト教」という言葉で捉え、それに固有の問題性をキリスト教神学の諸概念とつきあわせながら、従来の神学概念の有効性もしくは無効性についても検討していきたい。

そのために本セミナーでは、参加者の生の生活感覚・諸経験からの報告と、それをめぐる議論を大事にしつつ、当面する課題そのものの発見と、その解決に向けた実践的検討を重視していく。問題の解決を性急に伝統的組織神学の枠の中に求めることをせず、それを「アジア文脈」の問題として一旦捉え直し、その場で「神学する」ことを通して問題解決の神学的道筋を見出していくというのが本セミナーの主眼である。本セミナーの最終的な目も、そのようにして得られた神学的思考の道筋を蓄積しながら「アジア文脈の神学の可

能性」を探り、世界に発信していくことにある。

なお、本セミナーの受講者は特定の教派に限定することはせず、多様な信仰の視点を重視する。セミナー修了者には「アジア神学セミナー修了認定証」を発行するとともに、**ICT** を利用した修了生によるネットワークに参加してもらい、将来的にはそれを拡大して、アジアの各地域の教会、神学校、神学生を縦横に結ぶ「**e** −プラットフォーム」（仮称「アジア神学プラットフォーム」）を明治学院大学に構築し、「アジア文脈のキリスト教神学」に関する拠点校への発展を目指す。本セミナーは、その最初の基盤作りの意味を持つ。当面、本セミナーは **3** 年を見直しの区切りとして進め、その実績を見つつ、将来的にはキリスト教研究所を母体とする独立大学院「アジア神学研究科」（**Studies of Ecumenical Theology in Asian Contexts** 仮称）へと展開していく。